総　説

成人看護学実習の評価に関する成果と課題をめぐる文献検討
―リフレクションと看護観に注目して―

大和広美[1]，永井菜穂子[1]，椙田広明[1]，三輪建二[2]

防医大誌（2022）**47**（2）：97－107

要旨：本研究は，成人看護学実習に関する文献検討を行い，実習評価に関する現状を知り，リフレクションと看護観に関する実習評価の課題を明らかにすることを目的とした。医学中央雑誌Web版（ver.5）のデータベースを用いて検索を行った。キーワードを「成人看護」「実習」「評価」「2011～2020」とし，検索した（164件）。さらに，除外基準を設け86文献を対象とした。

内容を分類したところ，看護技術の評価や到達度に関する文献が18件（20.9％）であった。これらの文献のうち11件は，厚労省が示している看護師教育の技術項目と卒業時の到達度に沿った技術項目を使用していた。一方，実習経験の共有やリフレクションに関する文献は３件（3.5％）であった。

看護技術の実践や見学の有無等，数値で示すことができるような評価はされていた。今後，患者に合わせたケアができたかどうかを判断できるような評価を追加していくことが求められるのではないかと考える。また，リフレクションを身につけることは，効果的で継続的な専門職能力開発の本質的要素であると言われており，学生が実習中に経験した実践のリフレクションをすることは重要である。リフレクションに関する評価は難しく文献数も少ない事から，今後研究を蓄積していく必要があると考える。

索引用語：　成人看護　／　実習　／　評価　／　文献検討

はじめに

文部科学省は，2008（平成20）年12月に「学士課程教育の構築に向けて」答申を取りまとめ，学士力に関して参考資料[1)]を提示した。この答申から，今日の大学教育では，「何を教えるか」より「何ができるようになるか」に力点が置かれ，学生が身に付けるべき能力を明確にしていく取り組みがされている。看護教育も同時期に，学生が身に付ける能力を明示する動きがみられ，2010（平成22）年看護系大学協議会より，看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標が初めて示され，現在の教育の現状にそって改訂されている。2018（平成30）年に示された看護学士課程教育におけるコアコンピテンシー[2)]は，６つの群で構成され，Ⅰ群対象となる人を全人的に捉える基本能力，Ⅱ群ヒューマンケアの基本に関する実践能力，Ⅲ群根拠に基づき看護を計画的に実践する能力，Ⅳ群特定の健康課題に対応する実践能力，Ⅴ群多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力，Ⅵ群専門職として研鑽し続ける基本能力の６つである。

この６つのコアコンピテンシーは，実践能力を問うものであり，講義などの知識だけでなく，臨地実習といった臨床の中で実践能力を養う内容になっている。臨地実習は，「看護の臨

[1]防衛医科大学校成人看護学講座
Department of Adult Nursing ,National Defence Medical College, Tokorozawa, Saitama 359-8513, Japan
[2]星槎大学大学院教育学研究科
Graduate School of Education, Seisa University, Yokohama, Kanagawa, 231-0021, Japan

令和３年９月２日受付
令和３年12月15日受理

地実習は，看護職者が行う実践の中に学生が身を置き，看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では，学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ，看護方法を習得する。（中略）看護の方法について，『知る』『わかる』段階から『使う』『実践できる』段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程である」[3]と定義されている。臨地実習は，実践能力をつけるためにも重要な位置づけにある。そのため，臨地実習で実践能力がどのように評価されているのか，またはどのような評価をしているのかを把握する必要がある。

実践能力の向上に関与するものとして，リフレクションと看護観がキーワードとして挙げられる。リフレクションは，看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーのⅥ群専門職として研鑽し続ける基本能力に位置付けられている。リフレクションとは，自身の実践を振り返り新しい知を見出したり，学びを導いたりする思考であり，実践の最中にも，これまでに学習した知識や経験から見出した知識を引き出し，活用する実践的思考である[4]。看護観は，自己の看護行為の基盤となる考え方や，個人の看護に対する考え方や信念[5,6]であり，看護実践を支え，看護者の行為選択の基準となり，看護実践力や看護の質の向上に不可欠なものである[7,8]。つまり，看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーの６つの能力を養う前提には，基盤となる看護観をも養う必要があると言える。

これらの看護教育における実践能力に関して参考になるのが，教育学を専門としている今津の教師の資質・能力の六層構成[9]である。今津は能力に関する評価について，「問題解決技能や知識・技術（テクニック）は外からの観察・評価がしやすい能力であり，授業観・子供観・教育観の練磨，自己成長に向けた探求心などは，観察・評価しにくい能力である」と述べている。また，「授業観・子供観・教育観の練磨や，自己成長に向けた探求心といった能力が不十分だと，身につけた力量も生かされず，その結果として問題解決技能が発揮できなかったり，知識・技術（テクニック）も衰退しやすくなったりするだろう」とも述べている。看護学の臨地実習評価についても教師と同様に，問題解決技法である看護記録を基盤とした実習が展開され，実践の場では，観察が行いやすく評価しやすい看護技術を中心とした評価が行われているのではないか。加えて，リフレクションといった思考力に関する評価や，看護の根底となる看護観に関する評価は不十分であるのではないかという仮説を立てた。そこで，本研究は，実習単位数が多い成人看護学実習に焦点を絞り，成人看護学実習の評価に関する研究（過去10年間）の文献から，研究の現状を知り，リフレクションと看護観に関する実習評価の課題を明らかにすることを目的とした。なお，成人看護学実習やコンピテンシーは，国により，実習形態・実習内容，看護師の役割に相違があると考え，今回は国内文献を取り扱った。

研究方法

１．文献の検索方法

１）医学中央雑誌web版（ver.5）を用いて検索を行った。検索には，「成人看護」，「実習」，「評価」をキーワードとし，「原著論文」「看護文献」「2011～2020」を入れ，絞り込みを行った（164件）。

２）検索された文献から，①看護系学会誌，大学・短期大学紀要に掲載された論文，②研究の体裁を整えた論文，③実習評価について記載がされている論文，④国内での論文を今回の対象文献とした。

３）除外基準として，①成人看護学領域でないもの，②学内演習に関する文献，③成人看護学以外の領域の実習が含まれた文献，④統合実習に関する文献，⑤文献レビューを除外基準とし，抽出された86文献を対象とした。

２．文献の分析方法

対象文献を精読し，実習の評価についてどのような研究が行われているのか，研究方法や結果から，研究内容について分類を行った。さらに，評価が行いやすい看護技術の文献，評価が難しいとされる専門職として研鑽し続ける基本能力のリフレクションに関する文献と，看護観に関する文献から，研究デザインと方法について抽出した。これらのデータから，本研究の仮説である，評価しやすい看護技術が中心に行わ

れているのか，評価が難しいとされるリフレクションといった思考力に関係する評価や，看護観に関する評価について検討した。

データの分析過程として，共同研究者と共に内容を確認し，分析の妥当性を高めるよう努めた。

倫理的配慮

文献を取り扱う際には，著作権を侵害することがないように配慮した。対象文献から抽出・引用する際には，著者の意図や意味が損なわれないよう努め，論文作成の際に使用した文献は，本文中に引用したことを明記すると共に引用文献リストに記載した。

結　　果

１．対象文献の概要

年代別にみると，2011年５件，2012年10件，2013年12件，2014年10件，2015年６件，2016年９件，2017年10件，2018年７件，2019年10件，2020年７件であった。看護師養成機関別にみると，大学55件，短期大学13件，専門学校９件，大学・短期大学の混合２件，短期大学・専門学校の混合３件，記載なし４件であった。

２．成人看護学実習の評価に関する論文の内容分類

成人看護学実習の評価に関する論文の内容分類を表１に示す。論文の内容分類では，看護技術の評価や到達度に関する文献[10-27] 18件（20.9％），病棟以外の部署を実習に取り入れた効果14件[28-41]（16.3％），教員・指導者の評価[42-51] 10件（11.6％），実習終了後の学習者の理解に関する文献[52-57] ６件（7.0％），授業評価に関する文献[58-63] ６件（7.0％），実習評価表に関する文献[64-68] ５件（5.8％），実習指導と学生の成績や目標に対する到達状況との関係性についての文献[69-73] ５件（5.8％），患者への支援方法の評価に関する文献[74-77] ４件（4.7％），リフレクションに関する文献[78-80] ３件（3.5％），看護観に関する文献[81-83] ３件（3.5％），実習前後の学生の成長に関する文献[84, 85] ２件（2.3％），資料の効果に関する文献[86, 87] ２件（2.3％），その他の文献[88-95] ８件（9.3％）であった。その他の８文献は，実習オリエンテーションに関する文献，学生の学習経験に関する文献，実習前の自己効力感と実習成績の関係性，実習環境について，過去５年間の実習評価の実態について，学生のストレス評価に関する文献，学内実習でのシミュレーションの効果に関する文献であった。

３．看護技術に関する文献

看護技術に関する文献を表２に示す。看護技術に関する文献は，18文献あった。研究デザインは，全て質問紙を使用した量的研究であった。尺度は，厚生労働省から出された，「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」を参考に，各々の学校が作成したものであった。下位項目は，学生の経験の有無や実践状況（一人で実施，看護師の指導の下実施，見学，実施してい

表１．文献の内容分類

n=86

内容分類	論文数	%
看護技術の評価や到達度	18	20.9
病棟以外の部署を実習に取り入れた効果	14	16.3
教員・指導者の評価	10	11.6
実習終了後の学習者（学生）の理解	6	7.0
授業評価	6	7.0
実習評価表	5	5.8
実習指導と学生の成績や目標に対する到達状況との関係性	5	5.8
患者への支援方法の評価	4	4.7
リフレクションの効果	3	3.5
看護観	3	3.5
実習前後の学生の成長	2	2.3
資料の効果	2	2.3
その他	8	9.3

表２．看護技術に関する文献

著者	発表(年)	タイトル	対象		方法
竹村[10]	2020	特定機能病院における成人看護学実習で習得すべき看護技術項目の精選	大学 60名	量	成人看護実習技術評価表※（110項目）
渡辺[11]	2019	複合的な技術試験導入後の２年次成人看護学実習での効果	専門学校 71名	量	実習で体験した技術内容について 技術試験内容が実習のどのような援助場面で役立ったのか 臨地実習につながるための技術試験内容
伊藤[12]	2019	終末期ケア実習における看護学生のコミュニケーション・スキルの獲得が対患者関係知覚とコミュニケーション懸念に及ぼす影響	大学 45名	量	終末期ケア場面における看護師コミュニケーション懸念尺度 終末期ケア看護師用コミュニケーション・スキル尺度 看護師用対関係知覚尺度
青木[13]	2018	成人看護学実習における看護技術到達度評価と実習課題の検討	大学 38名	量	看護技術体験調査票※ 見学した看護技術56項目 看護師とともに実施した看護技術44項目
生田[14]	2018	慢性期成人看護学実習における看護技術の到達状況と課題	大学 97名	量	成人老年看護学実習技術経験票※ 14項目146種類
三浦[15]	2017	成人看護学実習における看護技術経験の実態	大学 77名	量	看護技術チェックリスト※90項目
荻原[16]	2016	A大学成人看護学実習における看護技術経験の実際　パイロットスタディとの比較	大学 62名	量	成人看護学実習看護技術経験表※ （143項目）
石橋[17]	2016	成人看護学プライマリー・プリセプタード実習における技術経験の実態	専門学校 73名	量	成人看護学技術経験表※（102項目）
桑村[18]	2015	成人看護実習II（慢性期）における学習効果と課題	大学 平成24～26年に実習を終了した学生	量	受け持ち患者概要 看護技術経験録※ 実習目標の到達度
梅川[19]	2015	成人看護学実習の前後で変化した看護学生の社会人基礎力	大学 99名	量	経産省が示した「社会人基礎力」のプログレスシートに基づき３つの能力12の能力要素
菱刈[20]	2014	臨地実習における看護実践力育成方法の検討　看護実践力と影響要因（社会的スキル，自尊感情，自己教育力）の実態調査	短期大学 88名	量	KISS-18 自尊感情尺度日本語版 看護師自己教育尺度
伊藤[21]	2014	成人看護学実習における学生の看護実践能力への自信度と関連要因の分析 学年，実習過程評価，実習環境の検討	大学 急性期実習と慢性期を履修した３年生と４年生	量	文科省より提示された「学士課程で育成する看護実践能力の５群」を参考に看護実践能力に関する23項目 授業過程評価スケール-看護学実習用
立石[22]	2013	成人看護学臨地実習において修得されたコンピテンシーの自己評価	大学 170名	量	実習目的・目標 CHEERSで開発したコンピテンシー項目を一部変更した37項目
小西[23]	2012	成人看護学実習のオリエンテーションに看護技術演習を導入したことの効果　実習終了後のアンケートを分析して	大学 63名	量	４つの看護技術項目
田中[24]	2012	高度専門医療施設における看護学生の看護基本技術経験割合　成人看護学慢性期実習からの報告	大学 168名	量	看護技術チェックリスト※ （13援助項目112看護基本技術）
木村[25]	2011	成人看護学実習における看護技術修得状況の実態	大学 83名	量	臨地実習における看護技術の習得状況※ （14の技術項目と139の技術）
石光[26]	2011	成人看護学実習における学生の看護技術経験の実態	大学 85名	量	技術チェックリスト※（111項目）
辻村[27]	2011	成人看護学実習における看護基本技術経験度に関する検討　看護基礎教育カリキュラム改正に向けた技術項目の調査から	大学 急性期 83名 慢性期 82名	量	看護基本技術経験度※（142項目）

※ 厚生労働省　「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」を参考に作成したもの

ない等の項目）であり，それらを集計したものが半数を占めていた。

看護実践能力についての文献は２件であり，伊藤[21]は，文部科学省より提示された看護実践能力の５群を参考にし，看護実践能力を調査していた。また，立石[22]は，Consolidated Health Economic Evaluation Reporting Standards（CHEERS）で開発したコンピテンシー項目を一部変更し，調査していた。他の研究方法として，青木[13]や小西[23]は，看護技術の項目を絞った調査や，梅川[19]は，経済産業省の社会人基礎力を基にした能力調査を行っていた。

看護技術に関する文献の中の結論や今後の課題では，看護技術の実践状況（項目の実施できたもの，できなかったもの）に関する内容が多く述べられていた[10, 13-18, 21, 23-27]。その対応策として，技術項目の実施が低いものに関しては，看護技術を実践できるような実習環境の整備や指導者と教員間の連携を課題としている文献[10, 13, 21, 27]や学修方法の見直しや評価を課題としている文献[11, 12, 14, 16, 20, 23]があった。木村[25]は，看護技術であっても，コミュニケーションに関連する技術を含め，学生自身の技術経験に関わる心構えや姿勢などを総合的に評価することの可能性を示唆していた。桑村[18]は，看護技術の振り返りを行い経験の意味づけをすることや患者や家族が退院後に必要なセルフマネジメント力とQOL（Quality of Life）を考察できるような学習支援をすることの必要性と可能性について言及していた。立石[22]は，学生自身が自己の能力を見据えながらも看護者として働く自己の姿を客観的に見つめられる機会を与えるような教育への必要性と可能性を指摘していた。

４．リフレクションに関する文献

リフレクションに関する文献を表３に示す。対象となった論文は３文献[78-80]であった。これらの３文献は，リフレクションの自己評価に関する文献が１件[78]，実習終了後の経験の共有をする事例発表会に関する文献が２件[79, 80]であった。研究デザインは，全て量的研究であった。研究方法は，リフレクション尺度，Attention Relevance Confidence Satisfaction動機づけモデル（ARCS動機づけモデル）を使用した文献[78]，中島らが作成した「事例検討会の評価尺度」を参考にオリジナルの質問紙を使用した文献[79]，自己評価表（オリジナル）を使用した質問紙を使用した文献[80]があった。事例発表会での思考の振り返りや経験の共有，体験の意味づけ，学生の実習体験の共有についての下位項目があげられた。

５．看護観に関する文献

看護観に関する文献を表４に示す。対象と

表３．リフレクションに関する文献

著者	発表(年)	タイトル	対象		方法
青木[78]	2018	成人看護学実習で行うリフレクションの自己評価と動機づけとの関連	大学 117名	量	リフレクション尺度 ARCS尺度
福岡[79]	2017	成人看護実習における事例発表会の学びと課題の検討	大学 49名	量	中島らが作成した「事例検討会の評価」23項目を参考にオリジナルの質問紙
中原[80]	2011	成人看護学実習における実習指導の工夫（第１報）ケース・サマリー発表会参加による学生と指導者への効果の検討	短期大学 44名	量	自己評価表（４段階評価） 自由記述によるサマリー発表会へ参加しての感想

表４．看護観に関する文献

著者	発表(年)	タイトル	対象		方法
藤井[81]	2019	臨地実習における学生の看護者としての認識に関する研究	短期大学	質	臨床実習カンファレンスをすべて録音 教員の指導過程におけるメモ
秋山[82]	2015	成人看護実習時の実習態度に関する学生の自己評価と教員評価の比較	短期大学 99名 教員９名	量	原らの成人看護学実習における実習態度の評価を基に研究者が作成した10項目
柘野[83]	2013	成人看護学実習Bにおける学生の学びに関する研究　実習総括記録からの検討	短期大学 63名	質	実習総括記録

なった論文は，３文献[81-83]であった。研究デザインは，質的研究が２文献[81, 83]，量的研究が１文献[82]であった。質的研究では，実習でのカンファレンスの録音と教員の指導記録から学生の看護者としての認識を分析したもの[81]と，看護記録を使用し，学修体験から看護者としての自己の価値観・看護観を発展させる内容を記述したものを分析したもの[83]であった。量的研究では，オリジナルな質問紙を使用し，実習態度の評価と教員の実習態度の評価を比較したもの[82]であった。

考　　察

文献の内容分類をみると，学生の実習理解度や到達度（看護技術の評価や到達度・実習終了後の学習者の理解・実習指導と学生の成績や目標に対する到達状況との関連性），病棟以外の部署を実習に取り入れた効果・リフレクションの効果・資料の効果といった教育の工夫に関する研究がされていた。学生の実習理解度や到達度だけでなく，養成機関の目標を達成させるためのより良い実習とは何かを考え，様々な工夫をしている研究や，実習に携わる指導者や教員の指導評価や授業評価の研究がされており，カリキュラムの中での実習の位置づけを考えた評価がされているのではないかと考える。到達度評価においては，子どもの学習をねぶみして終わりにするのではなく，教師の指導，学校のカリキュラムや教育条件なども再検討し改善することが必要とされている[96]。学生の実習理解度や到達度を評価する事だけに留まらず，授業改善や工夫と言ったサイクルを作り循環させ，教育の改善・検討を常にしていくことが重要であると考える。また，実習評価表に関するものは，86文献中５文献と少なく，総括的な評価に関する研究は少なかった。看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーが改訂されるなど，必要とされる能力が明確になりつつあるため，総括的な評価を今一度見つめなおすことも必要なことなのではないかと考える。

また，文献の内容分類で，最も多かったのは，看護技術に関する文献20.9％であった。安酸[97]は，「看護技術においては，因果律で説明できる法則性と，単純な因果律では説明できない，多くの因子の複雑な絡まりあいで規定される法則性がある」と述べている。同じ看護技術でも患者の状態や状況によって実践方法が違うことも想定できるため，何をもって「一人で実施（できた）」と言えるのか，という判断を慎重に進めていくことが必要であると考える。また，看護技術の実践の有無や見学した等，数値で示すことができるような評価をするだけでなく，ひとりひとりに合わせたケアができたかどうかを判断できるような評価を追加していくことが今後求められるのではないかと考える。

リフレクションに関する文献と看護観に関する文献の２つは，割合として少なかった。研究方法は，尺度での評価だけでなく，学生の実習記録や，カンファレンス内容録音，指導記録など様々な資料を用いて，評価をしようと工夫されていた。看護学教育モデル・コア・カリキュラム[98]では，「特定の専門知識・技術の教育にとどまらない学士としての批判的・創造的思考力の醸成，対人関係形成能力の基礎となる，自らをよく知り，自己を深く振り返る内省，自己洞察能力の強化」が言及されている。リフレクションを身につけることは，効果的で継続的な専門職能力開発の本質的要素であると言われている。実習中は，自ら体験したことを基に，リフレクションを行うことで，気づきを得て，思考力・実践力の能力を向上させる一助となることができる。また，実践とリフレクションを繰り返す中で，学生が，自らの行動をリフレクションすることは，看護師として必要な態度を身に付けることができると考える。そのため，実習中に体験した看護技術等の実践のリフレクションは重要である。リフレクションは，だれと行うか，どんな視点で行うか，何を使って行うか，どんな環境であるかなど，様々な要因がリフレクションの成果に影響を及ぼす。Bulman[99]は，「リフレクションの直接的な効果として実践における個人の成長を評価することは困難に満ちている」とも述べている。このように，リフレクションは，様々な要因が影響することが明らかになっているため，量的研究だけでなく，質的研究やミックスメソッドなど様々な方法を用いて評価を検討していく必要がある。加えて，実習評価におけるリフレクショ

ンに関する研究は少なく，研究をさらに蓄積していく必要がある。また，看護観に関する研究では，それぞれの体験した思いから看護観をどのように評価していくのか，評価基準も難しく，研究が少ない現状があるのではないかと考える。一方で，臨地実習での患者との相互作用の体験を踏まえて看護の本質をつかんでいる報告がある[100, 101]。つまり，実習中の短い間でも看護観は養われていると言える。そのため，看護観について表記できるような記録等によるツールの検討や，それらを評価する基準や方法等について吟味する必要がある。実習評価の看護観に関する研究は，リフレクションに関する文献と同様に少なく，さらに研究をしていくことが望まれる。

看護技術に関する文献の今後の課題では，実習中の看護技術の実施項目が低い看護技術項目を経験できるように改善していくかを記載した課題が多かった。一方で，木村[25]は，技術経験に関わる心構えや姿勢などを総合的に評価すること，桑村[18]は，看護技術の振り返りを行い経験の意味づけをすること，立石[22]は，学生自身が自己の能力を見据えながらも看護者として働く自己の姿を客観的に見つめられる機会を与えるような教育の必要性と可能性について指摘していた。これらの指摘は，看護技術の枠内にあっても，対人関係能力や看護観のつながりへ結びつくことを述べているのだと言える。今津[9]は，「技術（テクニック）は対人関係能力と教育観も動員されて問題解決技能に結晶し幅広い技能（スキル）として発揮される」と述べている。しかし，木村[25]桑村[18]立石[22]の文献では，技術の経験を中心とした学習でも，学習者や教育者の受け止め方や実習での経験をどのように活用するかによって，対人関係能力や看護観を養うことにつながる教育が行える可能性を示唆しているのかもしれない。こうした看護技術の評価から，対人関係能力や看護観等の能力がどのように養われていくのかを研究することも必要であると考える。

実習評価は，各々の養成機関の実習目標に応じた実習評価がされており，看護技術だけでなく，対人関係能力や，看護観，専門職者としての態度を養う項目も実習評価に含まれている。今回抽出された内容分類を個別に評価しているわけではなく，レポートや学びの共有からも評価していると考える。しかし，それらをどのように教育者が判断し評価しているのかといった教育者が行う評価に関する内容は，今回の文献検討からは明確にならないためこれらを踏まえて評価を再考する必要がある。実習は成人看護学実習だけでなく，他看護学の分野も実習を行っており，継続した評価についても視野を広げていくことが必要であると考える。また，今回の文献検討では，観察が行いやすく評価しやすい看護技術を中心とした評価が行われているのではないか。加えて，リフレクションといった思考力に関する評価や，看護の根底となる看護観に関する評価は不十分であるのではないかという仮説を検証するため，看護技術やリフレクション，看護観の研究内容について主に焦点をあてて検討したが，それぞれのリサーチクエスチョンや今後の課題をみていくことについては，今後の課題としたい。

結　論

1．看護技術に関する文献が多く，実践の有無といった，比較的観察ができ，評価しやすい研究が多く行われていた。
2．実践能力として観察が難しく，評価が難しいとされるリフレクションや看護観に関する評価に関する研究は，様々な方法で研究がされていたが文献数は少ない現状が明らかになった。

今後の展望

実習評価のリフレクションに関する研究は，様々な影響因子があるため量的研究だけでなく，質的研究やミックスメソッドなど様々な研究を積み重ねていく必要がある。

実習評価の看護観に関する研究は，評価するツールの検討や評価基準は何かを明確にしていき，評価方法を検討していく必要がある。

付　記

本研究は，第31回日本看護学教育学会学術集会で発表した内容を加筆･修正したものである。また，本研究における利益相反は存在しない。

文　献

1）文部科学省 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて（答申）概要https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_003.pdf（参照2021-08-25）
2）看護系大学協議会：看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標　https://www.janpu.or.jp/file/corecompetency.pdf（参照2021-08-25）
3）文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会第二次報告看護学実習ガイドライン，p3　https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf（参照2021-08-25）
4）池西悦子：リフレクションの基本を再確認しよう．Nurs BUSINESS **12**: 8-11, 2018.
5）小田亜希子，武藤雅子，小林幸恵，他：看護大学生の看護観に関するテキストマイニングを用いた分析．活水論文集 **3**: 3-21, 2015.
6）秋山優美，加藤隆雄：臨地実習における看護学生の看護観の変化　基礎看護学実習ⅠⅡの「実習のまとめ」テキストマイニング分析．中部大生命健科研紀 **17**: 55-62, 2021.
7）石津みえ子：看護基礎実習における看護観の育ち．看教 **36**: 245-251, 1995.
8）鈴木良子，柴藤　恵，秋吉静子：看護学校と臨床との連携で看護観を育む．看教 **43**: 176-182, 2002.
9）今津孝次郎：教師が育つ条件．岩波新書，東京，2012, pp47-68.
10）竹村多加，佐藤美樹，田中理子，他：特定機能病院における成人看護学実習で習得すべき看護技術項目の精選.インターナショナルNurs Care Res **19**: 1-10, 2020.
11）渡辺　彩，安藤直子，諏訪真由美：複合的な技術試験導入後の２年次成人看護学実習での効果．神奈川リハ事業団厚木看専紀 **9**: 5-7, 2019.
12）伊藤まゆみ，井原　緑，金子多喜子，他：終末期ケア実習における看護学生のコミュニケーション・スキルの獲得が対患者関係知覚とコミュニケーション懸念に及ぼす影響．共立女大看誌 **6**: 1-11, 2019.
13）青木君恵，梅田君枝，澁佐徳紀，他：成人看護学実習における看護技術到達度評価と実習課題の検討．千葉科学大紀 **11**: 119-125, 2018.
14）生田美智子，佐原弘子，土屋裕美，他：慢性期成人看護学実習における看護技術の到達状況と課題.椙山女学園大看研 **10**: 39-50, 2018.
15）三浦恭代，山中政子，平賀元美，他：成人看護学実習における看護技術経験の実態．千里金蘭大紀 **13**: 125-133, 2017.
16）荻原麻紀，齋藤貴子，谷地和加子，他：A大学成人看護学実習における看護技術経験の実際　パイロットスタディとの比較．日赤秋田看大日赤秋田短大紀 **20**: 25-34, 2016.
17）石橋直美，中村麻美：成人看護学プライマリー・プリセプタード実習における技術経験の実態．埼玉医科大短大紀 **27**: 91-102, 2016.
18）桑村淳子，栗原明美，近藤ふさえ，他：成人看護実習II（慢性期）における学習効果と課題．順天堂保健看研 **3**: 42-51, 2015.
19）梅川奈々，北尾良太，新井祐恵，他：成人看護学実習の前後で変化した看護学生の社会人基礎力．日看会論集：看護教育 **45**: 98-101, 2015.
20）菱刈美和子，菊地きよ美，石渡智恵美，他：臨地実習における看護実践力育成方法の検討　看護実践力と影響要因（社会的スキル、自尊感情、自己教育力）の実態調査．日看会論集：看護教育 **44**: 98-101, 2014.
21）伊藤朗子，新井祐恵，山本純子，他：成人看護学実習における学生の看護実践能力への自信度と関連要因の分析　学年、実習過程評価、実習環境の検討.千里金蘭大紀 **10**: 47-54, 2013.
22）立石和子，中澤洋子，原谷珠美，他：成人看護学臨地実習において修得されたコンピテンシーの自己評価．北海道文教大研紀 **37**: 177-187, 2013.
23）小西美里，須田利佳子，千明政好，他：成人看護学実習のオリエンテーションに看護技術演習を導入したことの効果　実習終了後のアンケートを分析して．日看会論集：看護教育 **42**: 100-103, 2012.
24）田中　瞳，武田洋子，佐々木榮子：高度専門医療施設における看護学生の看護基本技術経験割合　成人看護学慢性期実習からの報告．日赤秋田看大日赤秋田短大紀 **16**: 27-35, 2012.
25）木村久恵，村井嘉子，牧野智恵，他：成人看護学実習における看護技術修得状況の実態. 石川看誌 **8**: 73-82, 2011.
26）石光芙美子，古谷　剛，口元志帆子，他：成人看護学実習における学生の看護技術経験の実態．目白大健科研 **3**: 75-79, 2011
27）辻村弘美，武居明美，堀越政孝，他：成人看護学実習における看護基本技術経験度に関する検討　看護基礎教育カリキュラム改正に向けた技術項目の調査から. 群馬保健紀 **31**: 9-16, 2011.
28）飛永眞由美，滝沢美世志，寺西佳世，他：看護学生がとらえた初療室における救急看護．中部大生命健科研紀 **16**: 31-39, 2020.
29）室田昌子，岩脇陽子，滝下幸栄，他：退院支援事例をアセスメントする学習を取り入れた成人看護学実習の効果．京都府医大看紀 **28**: 43-48, 2019.
30）平良由香利，梶山直子，室伏圭子，他：看護大学生が成人看護学実習におけるシャドーイングから得た学び．医療職の能力開発 **4**: 1-9, 2017.
31）礒本暁子，柘野浩子，塩見和子，他：成人看護学急性期実習における受け持ち患者手術室見学の実習開始前自己学習目標と学習内容の分析．新見大紀 **36**: 43-48, 2015.
32）柴田和恵，大野和美，臺野美奈子，他：成人看護学臨地実習における外来看護体験実習での学び．天使大紀 **15**: 41-53, 2015.
33）大野和美，臺野美奈子，坂野恵子，他：成人看護学臨地実習における専門・認定看護師等同行実習での学び．天使大紀 **15**: 15-29, 2015.
34）古市清美，益子直紀：救命救急センター実習における看護学生の学習経験．ヘルスサイエンス研 **18**: 89-92, 2014.
35）藤巻承子，能塚覚美，森　祐子，他；看護学部生に対する手術室実習の意義と効果．日看会論集：成人看Ⅰ．**44**: 193-196, 2014.
36）平野文子，伊藤奈美，坂根可奈子，他：成人看護学に外来化学療法実習を取り入れた看護学生の学び．島根大出雲キャンパス紀 **8**: 9-17, 2013.
37）太田浩子，小野美穂，藤永正枝：成人看護学慢性期実習における腎センター見学実習での学生の学習経験.インターナショナルNurs Care Res **12**: 101-107, 2013.

38）山本加奈子，佐久間美華：急性期看護実習におけるICU実習の意義　ICU実習の経験の有無による実習目標達成度の比較検討.日看会論集：成人看Ⅰ. **43**: 107-110, 2013.
39）大島麻美，河合節子：成人看護学慢性期実習における継続看護実習の学習効果 学びレポートの内容分析より. 旭中病医報 **33**: 10-13, 2012.
40）水谷郷美，城丸瑞恵：手術室実習における学生・実習指導看護師の達成感に関連する要因．日手術看会誌 **7**: 10-14, 2011.
41）長瀬雅子，高谷真由美，青木きよ子，他：慢性的な疾患/状態を抱える成人患者を対象とした看護学実習における体験型実習の意義．医療看研 **8**: 1-7, 2011.
42）石井あゆみ，岩佐美香，長谷川幹子，他：成人看護学実習における効果的な実習指導行動の検討 ECTBを用いた学生評価と看護師自己評価の比較. 千里金蘭大紀 **16**: 153-158, 2020.
43）長谷川幹子，平賀元美，山中政子，他：成人看護学実習における臨床実習指導者の指導に対する学生の認識．千里金蘭大紀 **15**: 85-92, 2019.
44）清水登紀子，桝本朋子，影本妙子：学生担当看護師の有無による実習指導効果の比較．川崎医療短大紀 **38**: 17-23, 2018.
45）山中政子，平賀元美，岩佐美香，他：成人看護学実習中の実習指導行動に対する学生評価と看護師自己評価．千里金蘭大紀 **14**: 117-125, 2018.
46）村口孝子，平野裕美，出石幸子，他：成人看護学実習における臨地実習指導者の指導行動の評価に関する研究．鳥取看大・鳥取短大研紀 **74**: 1 -13, 2017.
47）山本純子，伊藤朗子，中本明世，他：日本語版ECTBを用いた成人看護学実習の実習指導評価 看護学生と実習指導者、実習指導者の役割による比較から．千里金蘭大紀 **11**: 121-129, 2014.
48）新井祐恵，伊藤朗子，山本純子，他：日本語版ECTBを用いた成人看護学実習指導の検討　実習指導者と看護学教員の評価から．千里金蘭大紀 **10**: 95-103, 2013.
49）濱松恵子，藤堂由里，影本妙子：実習時間数の減少に伴う看護学生の実習指導評価　成人看護学実習（慢性期・終末期）への影響．川崎医療短大紀 **32**: 15-20, 2012.
50）中澤洋子，立石和子，原谷珠美，他：成人看護学実習前後の学生の変化に関する研究 「不安」「看護過程展開」「コンピテンシー」を中心に．北海道文教大研紀 **36**: 127-136, 2012.
51）藤堂由里，近藤栄律子，影本妙子，他：学生による成人看護学慢性期・終末期の実習指導評価．川崎医療短大紀 **31**: 33-38, 2011.
52）藤原正恵，江口秀子，葛場美那：成人看護学実習Ⅱ（急性期）における学生の学び　実習終了後のレポートからの分析を通して. 大阪青山大看ジャーナル **2**: 58-68, 2018.
53）中村眞理子，薄井嘉子，鈴鹿綾子，他：成人看護学急性期実習において学生が学んだと認識した看護の内容 グループの振り返りレポートから．日看会論集：看護教育 **47**: 95-98, 2017.
54）長嶋祐子，中居由美子，風岡たま代，他：成人看護学実習で学生が最も学んだと認識している内容急性期実習と慢性期実習の実習終了後レポートの分析から．横浜創英短大紀 **8**: 155-160,2012.
55）塩見和子，小野晴子，掛屋純子，他：成人看護学実習Aにおける学生の学びと指導の課題．インターナショナルNurs Care Res **11**: 173-181, 2012.
56）宮武陽子，川久保和子，毛塚早織：看護基礎教育カリキュラム改正前後の成人看護学実習（急性期）における学生の学びの比較．足利短大研紀 **32**: 105-111, 2012.
57）塩見和子，柘野浩子，礒本暁子，他：成人看護学実習Aにおける実習目標に対する学びの自己評価. 岡山看教研会誌 **36**: 18-27, 2012.
58）山田　香，遠藤和子，王巧林：成人慢性期看護学実習におけるリハビリテーション栄養プログラムの導入による学習効果　実習終了時の学生のインタビューより．山形保健医療研 **23**: 27-36, 2020.
59）市川裕美子，坂本弘子，佐藤真由美，他：学生が捉えた成人看護学実習の評価と評価に関連する要因．八戸学院大紀 **58**: 139-147, 2019.
60）尾黒正子：Observation on Student Lesson Evaluation of Adult Nursing Practice (perioperative nursing).インターナショナルNurs Care Res **14**: 67-76, 2015.
61）直成洋子，前田和子，橋本歩美，他：成人看護学実習の学生による評価　授業過程評価スケール（看護学実習用）を用いて．茨城キリスト教大看紀 **4**: 35-45, 2013.
62）柘野浩子，塩見和子，小野晴子：成人看護学実習の実習指導に対する学生の授業評価　授業評価スケール活用の予備的調査．新見大紀 **32**: 129-135, 2011.
63）森　初美，西村伸子：A大学看護学科成人看護学実習における学生評価に対する指導のあり方の検討．宇部フロンティア大看ジャーナル **4**: 31-36, 2011.
64）森安朋子，趙　崇来，利木佐起子：成人看護学実習I（急性期）における学生のルーブリックの活用と有用性の実態．保健医療技論集 **14**: 37-48, 2020.
65）鈴木香苗，中信利恵子，松本由恵，他：成人看護学実習における学生のルーブリックの活用状況. 日赤広島看大紀 **18**: 11-17, 2018.
66）山田　香，遠藤和子：成人看護学実習（慢性期）におけるルーブリック評価の作成と試用．山形保健医療研 **20**: 41-52, 2017.
67）横井和美，伊藤あゆみ，生田宴里，他：成人看護学実習にルーブリック評価を活用したことの有用性　学生自己評価と教員評価との関連からの検討. 日看教会誌 **26**: 13-24, 2017.
68）生田宴里，荒川千登世，山根加奈子，他：本学の成人クリティカルケア実習における教育的介入の手がかりについての検討 ルーブリックを用いた学生と教員の評価の分析から．人間看研 **14**: 47-52, 2016.
69）村岡祐介，舘山光子，井澤美樹子，他：成人看護学実習における学生の満足度と教員の関わりや実習目標の理解度・到達度の関係性の検討．弘前学院大看紀 **15**: 1-10, 2020.
70）中本明世，冨澤理恵，森岡広美，他：A大学の成人看護学実習において指導者から受けた指導内容に対する学生による評価と自己効力感との関連. 千里金蘭大紀 **14**: 107-115, 2018.
71）中本明世，冨澤理恵，森岡広美，他：成人看護学実習において自己効力感を高める実習指導の検討　実習状況別の臨地実習自己効力感の違いおよびECTBを用いた実習指導評価との関連．千里金蘭

大紀 **13**: 49-57, 2017.
72）岡田日鶴，藤原禎子，和田みずえ，他：成人看護学実習（急性期）における効果的な指導のあり方　学生の達成感と満足感に影響する要因の相関関係から．中四国立病看校紀 **11**: 6-13, 2015.
73）加藤正美，中村美知子：看護学生の実習到達度票を用いた面接評価の効果　非面接評価と面接評価の比較．山梨大看会誌 **11**: 23-27, 2012.
74）村山志津子，三上ふみ子，木村千代子，他：看護学生の成人看護学実習（慢性期）における患者指導の実際と困難．青森中央学院大研紀 **29**: 21-34, 2018.
75）福岡珠美，西山　円：成人看護学実践実習での手作りパンフレット作成による自己効力感の関係と教育効果.太成学院大紀 **20**: 111-122, 2018.
76）大木友美，水谷郷美，城丸瑞恵：成人看護学実習における学生デモンストレーション「個別性を活かした看護援助」に関する学び．昭和大保健医療学誌 **10**: 45-49, 2012.
77）木下みゆき，竹元仁美，齊田菜穂子：看護学生の終末期看護の学習に影響を与える要因の検討 ホスピス実習後のアンケート調査から．日看会論集：成人看Ⅱ **41**: 74-77, 2011.
78）青木奈緒子，八尋陽子，中村眞理子，他：成人看護学実習で行うリフレクションの自己評価と動機づけとの関連．インターナショナルNurs Care Res **16**: 33-41, 2017.
79）福岡真理，七川正一：成人看護実習における事例発表会の学びと課題の検討．鹿児島純心女大看栄紀 **21**: 46-53, 2017.
80）中原順子，菱刈美和子，斎藤美喜，他：成人看護学実習における実習指導の工夫（第 1 報）ケース・サマリー発表会参加による学生と指導者への効果の検討．共立女子短大看紀 **6**: 19-33, 2011.
81）藤井洋子：臨地実習における学生の看護者としての認識に関する研究．岐阜医療大紀 **13**: 29-37, 2019.
82）秋山千恵子，鈴木　妙，久保かほる，他：成人看護実習時の実習態度に関する学生の自己評価と教員評価の比較．埼玉医科大短大紀 **26**: 95-105, 2015.
83）柘野浩子，塩見和子，礒本暁子，他：成人看護学実習Bにおける学生の学びに関する研究　実習総括記録からの検討．新見大紀要 **33**: 29-36, 2012.
84）佐藤聖一：成人看護学急性期実習前後における学生の共感性と自己成長感の変容と関係．日看会論集：看護教育 **47**: 87-90, 2017.
85）下村美佳子，和田　恵，時長美希：看護学生の臨地実習前後の社会的スキルの変化と実習中における人とのかかわり．高知女大看会誌 **41**: 163-169, 2015.
86）大滝　周，大木友美，加藤祥子：看護学生の手術室見学実習を効果的に実施するための教育的試み（第 2 報）手術室実習資料「手術室入室から退室まで」の活用の効果について．昭和大保健医療学誌 **12**: 28-36, 2014.
87）板東孝枝，雄西智恵美，今井芳枝，他：成人看護学実習における「手術室見学実習観察項目表」を導入した実習の学習効果の検討．JNI **11**: 51-58, 2013.
88）橋本真由美，金子直美，安心院康彦：ケースマップによる成人看護急性期実習の学習課題分析．日臨救急医会誌 **23**: 87-92, 2020.
89）市川裕美子，佐藤真由美，木村紀美：成人看護学実習における学生の学習経験の実態．八戸学院大紀 **59**: 21-28, 2019.
90）重岡秀子，池本かづみ，石崎文子，他：成人看護学実習前・後における学生が感じるストレス感情と不安状態の実態.広島都市学園大誌：健科と人間形成 **2**: 17-26, 2016.
91）Kondo Akiko, Horii Naoko, Miwa Miki, et al.: The Relationship between Self-efficacy prior to the Practicum of Adult Nursing for Chronic Illness and the Grades Received for the Practicum. 日看医療会誌 **16**: 23-28, 2014.
92）小野晴子，礒本暁子，柘野浩子，他：成人看護学実習における看護管理に関する達成度の年度別比較　臨床実践能力の修得に向けて. インターナショナルNurs Care Res **13**: 83-91, 2014.
93）藤田佐和，廣川恵子，石井　歩，他：看護実践能力育成に向けた新たな実習方法の検討 シミュレーション学習を取り入れた成人看護実習を通して獲得できた能力に着眼して．高知県大紀看護 **63**: 1-11,2014.
94）池田貴子，長嶋祐子：看護学生視点からみた成人看護学実習環境について．日看会論集：看護管理 **43**: 71-74, 2013.
95）秋山千恵子，浅見多紀子，久保かほる，他：成人看護実習における実習評価の検討．埼玉医科大短大紀 **23**: 83-100, 2012.
96）西岡加名恵，石井英真，田中耕治：新しい教育評価入門．有斐閣コンパクト，東京，2015, pp30-32.
97）安酸史子：経験型実習教育．医学書院，東京，2015, pp6-9.
98）文部科学省：看護学教育モデル・コア・カリキュラム, 2017, 2-3.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/__icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf（2021-08-25参照）
99）Chris Bulman,Sue Schutz編，田村由美，池西悦子，津田紀子監訳：看護における反省的実践原著第 5 版．看護の科学社，東京，2014, pp293-297.
100）長谷川真美，鶴田晴美，中村昌子，他：看護基礎教育における看護観形成に関する研究–基礎看護実習前後のイメージ変化．東都医療大紀 **4**: 55-63, 2014.
101）秋山優美，加藤隆雄：臨地実習における看護学生の看護観の変化基礎看護学実習ⅠⅡの「実習のまとめ」のテキストマイニング分析．中部大生命健科研紀：**17**: 55-62, 2021.

The evaluation of Medical-surgical nursing practice – Current status and issues: A review of literature
– Focusing on reflection and the view of nursing –

Hiromi YAMATO[1], Nahoko NAGAI[1], Hiroaki SUGITA[1] and Kenji MIWA[2]

J. Natl. Def. Med. Coll. (2022) **47** (2) : 97 – 107

Abstract: This study aimed to clarify the issues related to the evaluation of medical-surgical nursing practice and its results, focusing on improving the thinking and practical skills and the perspectives about nursing by reviewing research trends. This research was conducted using the Ichu-shi web (ver. 5) search. Using combinations of search terms, such as “medical-surgical nursing,” “clinical practice,” “evaluation,” and “2011-2020,” 86 articles were found and analyzed. In the content classification, there were many studies on the evaluation and achievement of nursing skills. It is necessary to make evaluations that can be shown numerically (such as whether or not nursing skills are practiced and studied by observation) and can also judge whether or not care has been achieved (according to the patient) or not. Only a few reports shared or reflected on experiences during practice. However, reflection is an essential competency for effective and continuous professional development, and further research is required.

Key words: medical-surgical nursing ／ nursing practice ／ evaluation ／ reviewing research